

Stephanie Moreno

JAPN 3050

Kumiko Saito

アメリカで死刑

私はアメリカのすべての州において死刑を導入することに賛成だ。理由は三つある。

第一に、死刑は殺人犯がさらに犯罪を犯すのを防ぐことができる。殺人罪でほとんどの人が死刑になる。売国や殺人、大量虐殺は死刑が科される犯罪だ。死刑は最高の刑罰である、だからこそこれらの犯罪には死刑が適用されるべきである。これにより、社会全体の安全が確保され、犯罪の抑止力が高まるだろう。また、死刑が適用されることで、被害者やその家族に正義の感覚が生まれることも重要だ。

第二に、ある命を別の命のために奪うことは公平だ。「目には目を」という諺がある。これは、人は自分が与えた罰は受けるべきだという意味だ。確かに、多くの人死刑に反対する。私は死刑を支持していますが、多くの方は、死刑執行によって犯人を処罰しても、被害者を取り戻すことはできないと反対している。死刑に反対する人々にとって、殺人者を殺す意味がなくなる。しかし、それは正義をもたらす。また、犯罪者が罪を償うことに終止符が打たれることになるだろう。犠牲者の家族は正義を感じるだろう。家族にとって正義がなされたと感じることが重要だ。この公平さの原則は社会の安定と倫理的な秩序を維持するのに役立つ。

第三に、死刑は、死刑に値する人々が罰されるという考えを強化する。また、善良な人には良いことが起こるという考えも強化される。実は、死刑については日本でも議論がある。日本では死刑はあまり行われていない。実際、死刑では年間約3人しか処刑されていない。日本の心理学者の中には、その理由は本人の心理的に重要な役割を果たしていると主張する人もいる。日本人は職場で多大なストレスとプレッシャーの下で暮らしており、それが死刑を正当化する理由になる。死刑が実行されることで、社会が犯罪者に厳しさを示し、倫理的な責任の感覚を高めることができるだろう。これは社会に正義を促進する。

このように、死刑はメリットが多いので、アメリカのすべての州が死刑を導入すべきではないかと思う。